

ひたむきな
想いを胸に、歩む

1 特集／TOP INTERVIEW

くにしきエコシステム(株)
ページ
(株)上昇工業

4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力

5 けんしん同友会企業紹介

7 けんしんTOPICS

従業員が一丸となって取り組む海岸の清掃活動。
地域の子も達や近隣企業など、参加者は年々増え続けている



上／環境省令で定められた基準のもと、国家資格を持つスタッフが浄化槽の点検や清掃を行う
下／目指すは焼却や埋立て処分の削減。循環型社会の確立はその先にある

多様な技術と知識で あらゆる廃棄物を再資源へ

生活排水やトイレからの汚水を微生物の働きによって分解し、できる限りきれいな水に戻して河川に放流する浄化槽は、日々の生活の中になくてはならないもの。1977年創業の「くにさきエコシステム」は、各家庭の敷地内に設けられ、人々にとって最も身近な污水处理装置となる浄化槽の保守点検から清掃、し尿の汲み取りをはじめゴミの収集、処理、リサイクル事業を通じて、地域の環境負荷低減に長く貢献してきた。

座右の銘は「頼まれごとには信頼の証と考へ、積極的に物事に取り組む」



しかし、現在スローガンとして掲げる「地域のあらゆる廃棄物を資源に」という考えのもと、リサイクル事業を業務の軸とする環境企業へと舵を切ったのは、西田正孝社長が家業に戻った1990年代以降のこと。当時は環境問題のグローバル化が急速に進んだことで、世の中に様々な動きが生まれ、人々の廃棄物問題に対する意識が少しずつ向上してきた時代になる。西田氏は廃棄物処理業の従来のイメージを払拭すべく、環境問題に注力することを決め、一般家庭や事業系ゴミ、産業廃棄物、缶・ペットボトルの収集後は徹底した選別や、ときに中間処理を行い、可能な限り再資源化の方法を模索。それから30年以上の月日が流れた今、この業界は「静脈産業」として注目を集め、循環経済へのニーズが世界的に高まる現代において存在感を増している。

また、西田氏は組織全体が新たな挑戦に向けて一体感を持ち、企業の風土や誇りを強化する意図も込めて制服のデザインを一新。変革のメッセージを社内外へ発信し、

2007年には「国東衛生社」から現在の社名へ変更も行った。

近年、同社が着手したユニークな試みとして挙げられるのは、二酸化炭素排出削減による地球温暖化防止などを目的に、国東市が実施した「くにさきわくわく油田プロジェクト」。家庭から回収した天ぷら油を原料とし、高純度バイオディーゼルを自社で精製する活動を2023年から続けている。現在、その燃料は約半数の社用車に使用しているほか、大分空港で貨物をけん引する車両にも活用。ほかにも廃プラスチックを適切な処理により分解し、再利用を行う実証実験など、自治体や企業をはじめとするパートナーとともに、多くの課題と向き合っている。

さらにかげがえのない地球を次の世代に美しく引き継ぐため、国東市内の小中学校で環境にまつわる出張授業を開催。職場体験の受け入れや海岸の清掃活動など、子ども達が環境問題を「自分ごと」として捉え、理解を深めるための活動にも積極的だ。

創業から47年。これからも地域の景観や生態系を守り、未利用資源の活用を注ぐ技術集団として、自然環境に優しい廃棄物処理を追求していく。

国東同友会

[廃棄物処理業]

くにさきエコシステム株式会社
代表取締役 西田 正孝氏

DATA

所 国東市国東町浜崎3230-2
☎ 0978-89-5700
営 8:00~17:00
休 日曜、祝日
P あり



環境規制の強化などを背景に、今後の活躍がさらに期待される

青パパイヤにかける熱き想い。 アスリートのキャリア支援も夢

県内でも珍しい「青パパイヤ」を専門に栽培する「ベージュ」。代表の尾方利光氏は、数年前まで東京にあるスポーツ誌の出版社、「ベースボール・マガジン社」で広告営業や建設事業部門でスポーツ用の人工芝、コンクリート資材を販売する業務を行っていた。

ある日、芝の営業で訪れた中津市で、地元の農業関係者と接する機会があり「アスリートのセカンドキャリアとして青パパイヤ栽培の農業をやってみないか？」との提案を受ける。

尾方氏はそれまで、球界で活躍していたアスリートが現役を引退後、セカンドキャリアを歩むうえでの厳しい現状を数多く見てきたこともあり、「農業は元アスリートの新たなキャリアとなり、地域にも貢献できるのではないか」「食生活にも気を配る彼らがスーパーフードといわれる青パパイヤを自ら生産・販売できたら面白いのでは」と考え、2016年に出版社の別事業の担当として、青パパイヤ栽培を始める。

もちろん農業は全くの初心者だった尾方氏は、地元の農家にアドバイスを受けながら、ゼロから栽培・生産に尽力。最初は苦難の連続だったという。「栽培を始めて約3年間は、頑張っ育てたものの、販路が確立できておらず赤字の状態が続いた。売り先がないゆえ、時にはせっかく実った青パパイヤを、泣く泣く破棄することもあった」。

苦しい状況を打破するために尾方氏は、必死に関東圏を中心に奔走し、ようやく関東の大手スーパーをはじめ、伊勢丹新宿店との契約にこぎつける。特に伊勢丹では催

中津・下毛同友会

[農業(青パパイヤ生産業)]

ベージュ

代表 尾方 利光氏

DATA

〒 中津市諸田196-1

☎ 090-2525-6139

🕒 9:00~17:00 休 土・日曜、祝日

📍 あり



中津市の県道23号線沿いにある、5棟のビニールハウスで栽培

事への出店を機に、青パパイヤの栄養価の高さと美味しさが大盛況。注文数も伸び、人気は上昇していった。だが、それでも黒字化には至らず2022年、会社はついに農業事業から撤退することに。「撤退が決まったとき、私はすでに中津へ移住し、農業事業に専念していたので頭が真っ白になった。東京の会社へ戻るか否かの選択を迫られたが多くの人に出会い、支えられてきた青パパイヤ栽培を続けたいという思いが強かった」と、事業を個人で引き継ぎ、同年5月に完全独立した。

独立後も、台風14号の影響でハウスが

被害に遭うなど大変な時期もあったが、昨年には苗を植え替え今年再び、たわわに実り収穫の秋を迎えた。「振り返るといろんな苦労があったが、今は自分が食べるものを自分の手で作ることに喜びとやりがいを感じる」と尾方氏。今後は露地栽培を中心とした他品目にも取り組み、事業を軌道にのせたいと意欲を込める。また、もうひとつの目標は、根幹のひとつにある「事業をアスリートのセカンドキャリアの支援につなげること」。思い描く夢を胸に尾方氏は日々、愛情をもって青パパイヤに向き合い、生産と販路拡大に全力を注ぐ。

「長年続けてきた柔道の理念『精力善用 自他共栄』がモットー。『自分の強みを多くの方と共有し、ともに反映したい』と尾方氏



右 / 皮をむきサラダや炒め物のほかしゃぶしゃぶにしても美味。食べやすく栄養満点
中央 / パパイヤは大分県内では「道の駅なかつ」で販売。今後も販路を拡大していく予定

左 / パパイヤは腸内環境を整える酵素や食物繊維、ポリフェノールなど栄養豊富で、生活習慣病にも良いとされている



とび職の象徴的ウェア「タンク」姿がカッコいい。モチベーションと安全への意識を高めるため、社員全員が着用



上／過酷な環境のなかでの作業も多いゆえ、安全管理を徹底しながら、若き職人たちは日々さまざまな現場をこなす
下／体力も気力も必要なタフな仕事。それそれが持つ力が上昇工業の「チーム力」となっている



現場の環境や形状、施工スケジュールを順守し、迅速に足場を組み上げている

若きチカラあふれる 足場工事のプロフェッショナル

建設・土木の現場において、安全で確かな作業をするために重要な役割を担う「足場」。「上昇工業」は塗装用や新築・解体工事、プラント施設など、幅広い現場の足場工事をメイン事業に、外壁・屋根の塗装業を手がける。

現在28歳の二宮蓮社長が「とび職」の世界へ飛び込んだのは、まだ16歳の頃。右も左も分からないなか多くの現場を経験

「礼儀、誠実さ、そしてチームワークを何よりも大切にパワー全開で歩み続けます」と二宮氏



し、19歳という若さで個人事業主として独立した。しかしまだ10代、人脈も経験も浅く、最初は同業者からの孫請け的な仕事がほとんど。「事務所は実家、営業車も1台のみ。すぐに仕事が増えるわけもなく、ただがむしゃらに突っ走っていた」。

その後、21歳で現在の屋号を決め法人化を果たすが、周囲からは「まだ法人化は早すぎる」「若いから無理だ」と言われることも多かった。しかし二宮氏は「やるからには屋号のとおり、上を目指す」と決めていた。

若いからダメではなく、若いけどすごいな!といわれた」と、アグレッシブに事業確立のため走り続ける。

法人化した後も、飛び込みも含め営業活動を行うも、若さと社歴の浅い会社ゆえに、なかなか成果が実らず苦しんだことも多かった。だが、あきらめず、どん

な仕事も地道にコツコツと取り組み続け実績を積み上げていくうちに、「若くて元気がよくて、いい仕事するヤツらがいるな」と業界からも注目され徐々に信頼を得て、依頼が増えるようになった。

そして会社設立から7年目を迎えた現在、総勢24名の会社へと成長を遂げる。平均年齢23歳の若き人材が活躍する同社の強みは、丁寧で確実な仕事をまっとうするための技術力はもちろん、チームワークの良さ。「みんな本当に仲がいい。職人としても社会人としてもまだ経験の浅い若手にも、先輩社員みんなで支え合う空気が自然と育っていることが誇り。働くときは一生懸命頑張る、オフは自分も含め、思いっきり遊びを楽しむことが大切」と二宮氏。社員全員でバーベキューや食事をする機会も多く、年齢や社歴の垣根なく、にぎやかに「同じ釜の飯」を食べ、コミュニケーションを図る時間が何よりも楽しいという。

二宮氏の今後の展望は、他事業への展開。「とび職は危険を伴うし、何歳になっても続けられる業種ではなく、どうしても年齢・体力に限りがある仕事。だからこそ足場工事にとどまらず他の事業展開をし、みんなに楽しく長く働いてもらえる企業でありたい」と、将来的には建設事業への参入も視野に入れるなど、未来を見据えた構想も描く。

「上昇工業でよかった」。お客様はもちろん、社員からもそう思ってもらえる会社になりたいとの想いに満ちた二宮氏率いるプロ集団の、今後の活躍が楽しみだ。

大分東部ブロック同友会

[建設業(とび・塗装)]

株式会社 上昇工業

代表取締役 **二宮 蓮氏**

DATA

〒 大分市大字政所2909番地

☎ 097-574-6660

🕒 8:00~17:00

🗓 日曜 📍あり



有限会社 河野自動車整備工場
代表取締役 **河野 直人さん**

今年6月に新設した民間車検場。自動車検査員の資格をもつスタッフも5名在籍し、様々な車種の整備・車検を行う。



DATA
[自動車修理・販売業]

有限会社 河野自動車整備工場

〒 杵築市山香町内河野3015-1

☎ 0977-75-1035

🕒 8:30~17:00

📅 休 第2土曜、日曜、祝日

📍 あり



軽自動車から特殊車両まで 頼れる町の整備工場

公共交通機関が少ない地域で暮らす人々にとって、車はなくてはならない交通手段。「河野自動車整備工場」は山香町で50年以上、車の修理や車検、新車・中古車販売業を営み、地域の人々が「車のことなら何でも頼れる存在」として、厚い信頼を寄せる。

一般車両はもちろん、得意とするのは大型車や特殊車両の修理や整備。「昭和51年頃、山香が激甚災害地区に指定された際は、復旧工事のための特殊車両や重機の修理依頼が殺到。寝る暇もないほどの忙しさだったが、地域の復旧に役立つ仕事になった」と河野直人社長。当時の経験が現在、数々の大型車両にも対応する実力と信頼へと繋がっている。

また車検においても修理業務同様、一般車両から大型・特殊車両まで対応。平成9年には民間車検場として国の認証を受け、幅広い車種を手がける。さらに今年の6月

には、それまであった車検場に加え、新たな民間車検場を増設。縦20m、横幅8mと、ゆとりある検査場の完成により、これまで以上に大型車両の整備や車検作業を円滑に行える環境を作り上げた。

河野社長は現在、78歳。18歳の頃から自動車整備士として県内にある自動車ディーラーや工場で経験を積み、生まれ育った故郷で起業したいと26歳の若さで会社を設立した。「昔の整備士は経験と勘がモノという職業だったが、今は整備や点検もオートメーション化・マニュアル化されている時代。経験だけでなく、車の機能や性能の変化が早い自動車業界に柔軟に対応できる人材が必要」。今後はともに事業に携わる、長男の信隆さんと次男の英夫さんへ、徐々にバトンを託したいと優しいまなざしで語る。「これからも山香や杵築、県北エリアを中心に、地域の人から頼られる存在であるため、確かな仕事で信頼を維持したい」。真摯な姿勢で、お客様の車の困り事に向き合い続ける。

キラリ 新風力 New Wind & Fresh Power ふわり 爽風力

利用者の心に寄り添い 地域の介護・福祉を支える

介護保険を使ったホームヘルパーの派遣をはじめ、家政婦の紹介など在宅介護を中心とした事業を行う。創業は昭和5年。現在3代目を務める鎧坂守和現社長の祖母・ミツヨさんが、中津市で看護婦・家政婦紹介業の開業から始まる。昭和56年には、母・蓮江さんが事業を受け継ぎ法人化。平成に入り介護保険法の成立・施行がなされ、日本の高齢化が顕著となりはじめた頃からは高齢者の在宅支援を事業の主軸とし、訪問介護サービスに力を注ぐ。

現在、訪問介護事業所の多くは医療・福祉施設が別事業として運営するケースが多いなか、「共立ケア・サポート」は中津市でも数少ない、訪問介護事業所を独立で運営。長年、訪問介護事業を営み続ける根底には、「地域でずっと頑張ってきた高齢者が、住み慣れた自宅で暮らしたいという願

いを叶えるため、真剣に介護の仕事と向き合い続けたい」と願う、鎧坂氏の想いがある。

その一方で、ホームヘルパーの人材不足と高齢化は大きな課題だと語る。「ホームヘルパーは、利用者の自宅で1対1で向き合うため責任も大きく、コミュニケーション力や体力も要するが、人の役に立てる価値の高い仕事。人材確保には積極的に取り組みたい」。

また鎧坂氏は平成15年より身体・知的障がい者の福祉事業も展開。令和5年1月には「NPO法人インクル」を設立し、就労継続支援A型事業所「働く力BASE」をオープン。同施設は今年4月に「多機能型事業所」となり、障がい者の就労支援の場としてニーズは高まっている。

「みなさん、それぞれの能力や個性を生かせる仕事を頑張ってくれている。うちの事業所で自信を身につけ、いずれは一般企業へ羽ばたいてくれたら嬉しい。今後は就労支援のみならず、障がい者の居住事業・支援にも取り組みたい」。地域に根差した介護・福祉事業への挑戦は今後も続く。



有限会社 共立ケア・サポート
代表取締役 **鎧坂 守和さん**



訪問介護事業所では現在約13名のスタッフが中津市内を中心にヘルパーとして活躍。地元からの信頼も厚い。

DATA
[介護福祉事業]
有限会社 共立ケア・サポート
〒 中津市牛神407-1
☎ 0979-22-2199
🕒 8:30~17:30
📅 日曜
📍 あり



COMPANY GUIDE

コンサル業

大分財産コンサル株式会社



銀行勤務を経て会社を設立した宮本和明氏(写真中央)。
依頼者に最適な相続や不動産活用の道を模索する

家族の笑顔を守り、依頼者の想いをかたちに

不動産の売買・仲介・買取りを中心とし、資産活用及び相続のコンサル業を平成23年より展開する。家族間のトラブルを未然に防ぎたいという思いから、同社では弁護士や税理士、司法書士をはじめとする専門家とのネットワークを確立。複数の領域にまたがる依頼人の悩みにワンストップで対処する環境を整え、ときに財産分配の意思を明確に記した公正証書遺言の作成もサポートしていく。さらに円満な解決には事前対策の有無がポイントになることから、金融機関やハウスメーカー、保険会社などを通じたセミナーを積極的に開催。多くの人々に知識と経験を共有することにより、誰もが直面する本質的な課題への気づきを促していく。また、認知症対策として最も優れている家族信託にいち早く取り組み、県内で最初に専門士の資格を取得したのが代表の宮本氏である。



〒大分市今津留3-13-17
☎097-578-8970
🕒9:00~17:30
📅日曜、祝日
📍あり

時計等販売

シモムラ



杵築市の城下町で信頼の商品と技術の提供を続ける

街の時計店として思い出のものを長く大切に。

地域の時計店として愛されて100年。一世紀もの歴史を紡いできたシモムラは戦前、カメラや蓄音機など、人々の暮らしに寄り添い、心を豊かにする道具の修理店として歩みをスタートさせた。長い歳月の中で大切にしてきたのは、時代の変化に合わせてお客様に求められるものを提供すること。そこで同社では時間の精度と携帯性の向上を求めた人々のニーズに沿い、事業の軸を次第に時計販売・修理へと変化させていく。現在の取り扱いは眼鏡や宝飾品をはじめとする貴金属、民芸品にまで及び、店頭に並ぶブランドはトレンドや業界の動向に合わせて取り揃えている。また、「大切な思い出の品をずっと使い続けたい」という想いを守るため、修理では他社購入品も含めて幅広く対応。時計の作動状態やコンディションを確認した上で、経験豊富な技能士が愛着のある宝物を蘇らせる。



〒杵築市杵築152
☎0978-62-3016
🕒8:00~19:00
📅なし※年末年始
📍あり

資材小売業

有限会社 宮瀬建材店



カナツチやクワなど豊富な建材が揃う。
右ノ陶芸用の粘土など陶材も幅広く扱う

地元の頼れる建材店。陶芸材料の販売も好調

緑深き山々が美しい耶馬溪町で店を営み約70年。建築や土木に必要な、あらゆる建材を扱う。高齢化・過疎化が著しい地域だが、地元を愛し暮らす人々にとって「ちょっとだけローブがほしい」「家のサッシの補修の材料はないかな」など、困った時にすぐに頼れる存在として長年親しまれている。

約7年前からは、3代目の宮瀬浩明氏が中心となり、新事業「陶芸材料卸部門」を展開。滋賀県・信楽から取り寄せる陶芸粘土や釉薬、ろくろなどの販売を県内の陶芸教室へ行う。「陶芸材料を専門に扱う会社は県内でも珍しい。ネットで商品が手軽に買える時代だが、対面で実際に商品を目で見て触って、納得して買ってもらえるのがうちの強み。お客様の要望に応じていきたい」と語る。祖父・父から続く建材店の歴史と信頼を守りつつ、陶材部門でもコアなニーズを満たし、販路拡大を目指す。



〒中津市耶馬溪町大字柿坂638-1
☎0979-54-2620
🕒7:00~18:00 ※季節によって変更あり
📅日曜
📍あり

飲食業

居酒屋 まるい



笑顔が溢れるアットホームな店。カラオケルームも完備している

新鮮な海の幸と心温まるおふくろの味に憩う

国東市内を流れる武蔵川のほとりに、赤提灯をともし居酒屋がある。地元の新鮮な刺身を中心に、煮付けや焼魚、鶏モモ肉を1本丸ごと調理した唐揚げなど、代表の伊藤真由美さんが心を込めて手作りする料理は、誰の心の中にもある故郷の味そのもの。カウンターやテーブル席、座敷には10年以上ほぼ毎日通い続ける顔馴染みから、出張中のビジネスマン、旅行者が腰を下ろし、カラオケも楽しめることから歌好きも多く集まる。開店から25年。天候などの外的要因に左右されやすく、コスト上昇分の価格転嫁も難しい飲食業界に身を置く伊藤さんが大切にしてきたのは、「何事にも誠実であれ」というご両親からの教え。「手掛ける仕事の範囲は自分の目が届く範囲で狭く深く」がモットーだ。これからも自らの歩幅で訪れた人々の心にゆるりと根を張っていく。



〒国東市武蔵町古市572
☎0978-69-0228
営業18:00～23:00
休木曜
Pあり

美容業

株式会社 hdf



大在店の店内とスタッフ。
2店舗ともに女性の働きやすさと通いやすさを追求したサロン

主婦スタッフの目線に徹底的に寄り添う美容室

大分市大在と津留で美容室「hair Design fika.」を営む。「女性美容師は、拘束時間の長さや休日の取りづらさが原因で結婚や出産を機に離職するケースが多い。培ったキャリアを生かせないのはもったいない。これからの時代は、スタッフとその家族のことを考えるサロンが必要」と代表の男座 誠氏は、10年以上前からスタッフは全員主婦のパートのみ、さらにお客様も女性客限定と、女性に特化したサロンづくりを行う。また定休日は日曜、残業にならないよう配慮した受付時間、家庭の用事にも柔軟に対応する仕組みも構築。日々マルチタスクに追われる主婦のスタッフが、職場や家庭に気負うことなく働ける環境を整えた。この取り組みは2023年に大分県知事承認の「経営革新計画」を取得。働く人を想うサロンには、今日も女性たちの楽しい会話と笑顔が広がる。



〒大分市中津留1-2-3(事務所)
☎097-547-8098
営業9:00～17:00
休日曜
Pあり

機械設置及び
管工事業

株式会社 アーテック



上/モダンな社屋。
右/事務所の一角でペットとして飼育している愛馬の「ここちゃん」と柏木社長

多彩な技術力とノウハウで社会に貢献したい

2003年の設立以来、鉄鋼事業を軸に土木・環境など複合事業を展開。特に製鉄所や各種工場、倉庫、プラントにおける機械・器具の設置や溶接、メンテナンスを得意とし、幅広い領域で実績を積み上げている。「製鉄所や建設、土木の現場はつねに危険と隣り合わせ。さらに近年は猛暑による熱中症のリスクも考慮し、現場で奮闘する社員の健康を第一に、無理のない作業ベースに重点を置いている」と柏木義孝現社長。会社の生産性も大切だが、何よりも社員の心身の健康こそが質の高い仕事、優れた人材の維持につながると考える。

また柏木氏は芸能プロダクション、イベント業の別会社「(株)ホーカス・ホーカス」も運営。「マーク・バンサー」をはじめタレントのマネジメント業も担う。鉄鋼とイベント事業、全く異なる事業だが、どちらも「地域の発展と豊かさに貢献したい」と語る。



〒大分市高松東3-6-3
☎097-558-6338
営業9:00～18:00
休土・日曜、祝日
Pあり

豊かな海づくり大会 大分県大会に参加

去る、11月10日に大分市のいいちこグランシアタ及び別府湾などを会場とし、天皇皇后両陛下をお招きして「第43回全国豊かな海づくり大会」が開催されました。「全国豊かな海づくり大会」は、昭和56年に第1回が大分県で開催され、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民へ訴える催事で、大分県は今回が2巡目です。また、本式典や稚魚放流行事にご列席なされた天皇皇后両陛下は2019年の即位以降初めての来県となりました。

本大会にはけんしんも協力しており、式典には吉野理事長が特別招待され出席いたしました。



けんしん美術展「メセナアワード2024」優秀賞受賞

今年第33回を迎えた「けんしん美術展」。令和2年より県下13の同友会会員の皆様のご賛同をいただき「同友会賞」を設け、大分県内の若手作家の皆さんの登竜門として多くの出品をいただいております。大分の秋の美術展としてすっかり定着し、けんしんのメセナ活動としても評価をいただいておりますが、今年度、公益社団法人企業メセナ協議会主催の「メセナアワード2024」において、全国6社（大賞1社、優秀賞5社）の優秀賞として表彰されることになり、11月26日に東京青山のスパイラルホールにて吉野理事長が表彰状と楯を授与されました。同友会会員の皆様にお知らせするとともに、けんしん美術展に対しまして、今後ますますのご支援ご協力をいただきますよう、改めてお願い申し上げます。

【メセナアワード2024 優秀賞 一地域密着で美術の裾野を広げる希望の場一】

大分県信用組合 けんしん創立70周年記念 第32回けんしん美術展

【受賞理由】

継続して幅広い人々の創作・交流の場を作り、地域の活性化と文化振興に寄与している
発表機会の提供により、地域の人材育成とともに、芸術文化の裾野の拡大と循環につなげている。